

議員とカダる会（議会報告・意見交換会）報告書

開催日時	令和7年5月14日（水） 14時40分～16時10分
開催場所	青森公立大学 地域連携センター
会場責任者	小倉 尚裕
記録者	藤田 誠、相馬 純子
出席議員	小倉 尚裕、澁谷 洋子、相馬 純子、工藤 タ介、柿崎 孝治、 村川 みどり、藤田 誠、木下 靖
参加者数	29名（大学生25名、教員4名）
報告内容	令和7年青森市議会第1回臨時会及び第1回定例会の主な出来事
意見交換内容 （意見の要旨）	テーマ ふるさとへの思い～若者の人口流出 【ふるさとでの就職をどう考えるか 具体的な就職希望先の理由は】 ◎地元で就職したい 19人 ・地元だと安心。実家の近くで祖母の面倒をみたい。自然を守りたい、地元推したい。公務員になり人口減少を解消したい。 ・地域を盛り上げたい。青森にいたい。公務員になりたい。 ・家族が大好き。家族がいるから。3人 ・安心感がある。万が一の時、実家を頼りにすればいい。ふるさとの人はあったかい。観光資源が豊富。 ・住み慣れた土地だから。知り合いがたくさんいるから。5人 ・地域独自のコミュニケーションやつながりが強く、アットホームな雰囲気で仕事がしやすい。 ・育ってきて培った経験、地の利、メリット・デメリットに取り組みやすい。 ・故郷への愛着がある。ふるさとのことを考えていたい。 ・自然と関わる仕事。不動産関係副業として。漁業やっている人と地域と関わりたい。 ・現在築き上げているコミュニティーを維持し生かすことによって有意義な生活ができる。 ◎他の地域に行きたい。6人 ・関東付近 日本どこでも移動しやすい。 ・自分のやりたい仕事ができる土地。余暇を楽しめるところ。 （でも）満員電車は嫌だ。 ・地元は就職先が少ない。遊ぶ場所が少ない。 ・都市圏で就職したい。利便性が高い。ほしいものをすぐ手に入れることができる。 ・地元より発展しているところに就職したい。若い人が生き生きしている。行きたいと思う所がたくさんある。 ・都会へのアクセスも良くて程よく落ち着いた地域で就職。北関東近

くまで出たい。音楽業界の営業系の仕事。

【政治に感じること】

- ・政党で足の引っ張り合い。関係ない人と思う。
- ・投票に行くけど政治に興味はない。
- ・若い人は政治に関心を寄せる人が少ない。
- ・特になし。
- ・堅苦しいイメージ。
- ・税金の使い道が不透明。
- ・身近に感じない。
- ・国政について 昔に比べて政治の勢いが無い。停滞感。

【政治に期待すること どのような行政の支援が必要か】

- ・親しみやすさ 動画や演説で親しみやすさを 目でわかるような取り組みを 人柄が分かるように。
- ・好感度 PRを考える。広報活動を広げる。2人
- ・若者が関心を寄せるような取り組みをしてほしい。
- ・投票所を。(増やす)
- ・バスの本数が少ない 増やして。5人
- ・起業支援を。補助金を出す。7人
- ・子育て教育支援以外にも人が残り続ける支援制度を。(県内・市内で働く人には奨学金減免など)
- ・雇用の創出。企業誘致。3人
- ・Uターン、子育て世代へ支援を。
- ・道が凸凹している 道路の穴 道路状況が悪い。自転車 走りにくい。3人
- ・観光通りの渋滞緩和。
- ・ロードヒーティングの設置。2人
- ・ガソリン代が高い。安くして。3人
- ・物価高対策を。 3人
- ・時給を上げてほしい。
- ・アミューズメント施設を一か所に集める。営業時間延長。若者が集う施設を。3人
- ・自然が多いのでそれを生かしたイベントを。
- ・熊、蜂、カメムシ対策を。2人
- ・空き家問題の対策。
- ・青森市中心部の災害の備え。
- ・セントラルパークに駅を。
- ・青い森鉄道にも交通系IC適用を。
- ・公立大の立地。
- ・(議員と) 語り合える場を増やす。様々な世代の人が交流することができ、反映されるのではないか。若者が意見を言うハードルが下がるといい。
- ・中学生からこういう機会があるといい。
- ・高校→大学→東京 それ以外知ろうとしなかったこともあるが、知

	る機会がなかったと思う。知る機会が増えるとやりたいことへの道が増え地元でもやりたいことができるのではないかな。 ・市役所サイトの操作性向上。 ・「ぎかいの森」の特集 青森特有の職業を紹介し、若者の仕事探しに貢献してほしい。
記録者所見	大学生との話し合いは5回目だが、今回は学生の地元志向、地元愛を強く感じた。不確実で不安定な世界情勢を反映したまっとうな選択だと感じる。家族や周囲の人とのつながりを大事にし、地元に貢献したいという若者の思いを知るとともに、もっと生活しやすい政策を実行し、親しみやすさを前面に出してほしいとの宿題をいただいた。尽力していきたい。

青森市議会議長 様

令和7年5月16日

上記のとおり報告いたします。

会場責任者 文教経済常任委員長 小倉 尚裕

